

## 【ごあいさつ】

2022年が明けて既に1ヶ月がたちました。本年もよろしくお願ひいたします。

各所で言われ尽くされていることですが、世界がコロナ禍に巻き込まれて早2年になります。影響を受けていない人、組織は皆無かと思いますが、BiPHも例外ではありません。

BiPHにとっては初めての海外プロジェクトである「東ティモール民主共和国パーツ大学における『住民ニーズに基づく保健実践』のための教育強化プロジェクト」も、第2波が少し落ち着いた2020年9月に開始し、既に3年の実施期間の半分近くになっています。オンラインベースではもどかしいことも多いのですが、石本事務局長が2021年3月と11月に渡航し、現地、日本の両方での隔離期間という大変な条件を乗り越えて、現地調整員の雇用、調査準備、フィールド視察、進捗管理など現地でこそ進められる活動を実施しました。JICAの草の根技術協力プロジェクトとして、同時期に採択された案件の中にはまだ開始できていないものもある中、成果をあげているプロジェクトの1つとしていただいているようです。カウンターパートの日本研修や日本からの専門家派遣はまだ見込みが立っていませんが、カウンターパートや現地調整員の活躍に期待しつつ、できることを少しずつ行っていく予定です。

BiPHにとってもう1つの大切なプロジェクトであり、アジア保健研修所(AHI)と共同で進めている「Helping Health Workers Learn」の翻訳も、これは、コロナとは関係なく遅れておりましたが、ようやくゴールが見えてきました。現在最終監修に入り、印刷会社からの一部ページのサンプル原稿も届きました。形になっていくのを見ると気持ちが盛り上がりますが、入稿後も、初稿校正、2校校正とあと二山くらいあります。連休明けの完成を予定しておりますので、楽しみにしていただければと思います。

(代表理事:樋口倫代)



フィールド実習での聴き取り調査 (2021年11月)

## 【会員総会を開催しました】

2021年11月26日にBiPH年次会員総会を開催しました。昨年度に引き続きオンラインでの開催となりましたが、多くの方にご参加頂き、2021年度活動報告ならびに決算、2022年度活動計画ならびに予算案が承認されました。また、総会では活動や法人運営についてたくさんのご意見をいただきました。お忙しい中ご参加下さった皆様、ありがとうございました。

なお、法人創設から監事としてお支え下さった本田徹さんが、本総会を持って役員を退任されましたことをご報告いたします。この場を借りまして本田さんには心より感謝申し上げます。今後は理事5名、監事1名の役員体制で運営して参ります。引き続きご支援の程宜しくお願ひいたします。



## 【キーワード】

# 日本で生活する外国人の情報アクセス

世界的にCOVID-19の流行によって人との接触の機会が減った今、情報収集の手段として、ますますインターネットメディアが主流となっています。特に移民の人たちはソーシャルメディアからの情報収集が多いことが内外で報告されています。日本でも、在留外国人の約8割がソーシャルメディアを毎日利用しており、最も利用されているソーシャルメディアはFacebookであるという調査結果もあります。

ソーシャルメディアの利用が多い背景として、日本では一部地域を除き、在留外国人のための外国語による相談窓口や情報発信が少ないことがあります。日本のベトナム人を対象とした調査では、外国人向けのCOVID-19予防接種の情報不足について7割の人が心配であると回答したという結果もあります。そのような中、COVID-19に関する情報収集の手段としても、ソーシャルメディアが利用されやすいでしょう。しかし、メディアの情報には誤情報も多く存在するため、注意が必要です。



<https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/forforeigners.html>



<https://www.c19.mhlw.go.jp/dl-en.html>

公的機関では正確かつわかりやすい情報の発信の強化や、相談体制を整備していますが、当事者に届いていないのではないかと指摘も多いようです。実は外国人の情報収集手段として、メディアの次に多いのが「雇用主」や「会社や学校」という報告も複数あります。外国人を受け入れている会社や学校が独自にお知らせを作る余裕はあまりないかもしれませんが、信頼できる既存の多言語情報を活用したり、正しい情報にアクセスできるよう支援したりすることはできるのではないのでしょうか。

一般市民である私たちにもできることがあると思います。まずは私たち自身が日頃から誤情報に惑わされず正しい情報を得よう注意すること。次に、情報を発信する際は、公的機関のホームページや信頼できるサイトの情報を載せること。そして、それらを周囲の外国人に直接紹介すること。ひとりひとりがこれらに気をつけるだけで、そこからさまざまな外国人に情報が伝わり、正しい情報へのアクセスの支援になるのでは、と思います。

BiPHインターン 竹村まどか  
(名古屋市立大学看護学研究科 博士前期課程1年)

## 【東ティモールのCOVID-19対策】

公式ウェブサイトよりSNSが情報源になることが懸念されているのは移民には限りません。そのような中、東ティモール保健省はCOVID-19の情報発信にSNSを積極的に活用しています。Facebookページで毎日の感染者数を報告するほか、感染対策のプロモーションもYouTubeなどに載せています。中でも目を引くのがワクチン接種のキャンペーン動画。接種率70%強を達成した要因のひとつはこの動画かもしれません。噂では歌手もダンサーも保健省の職員とのこと。ぜひアクセスしてみてください！

### 「コロナワクチンを受けよう」

世界で知られるコロナウィルス 何千人も亡くなって心配させられてる  
じっと座ってなんかいられない 冗談言ってる場合じゃない  
友よ、待っていてはだめ わたしたち自身を守るためにワクチンを受けよう  
ワクチンは嫌なんて道はないよ 義務じゃない、だけど同意しよう  
保健従事者たちは、疲れているはずだけど疲れ知らず  
コロナのために夜も寝ずががんばってる  
コロナワクチン打ちに行こう 免疫を上げるために  
コロナウィルスと戦いに行こう みんな打ちに行かなくては、コロナワクチン  
なぜって今、われらが国土でもウィルスが増えて続けているから  
行こうよ、私たちみんなコロナワクチンを受けに わたしたちの命を守るために  
わたしたちの健康はわたしたちの手の中にあることを忘れないで  
(日本語訳: 樋口倫代)



東ティモール保健省Facebookページ

<https://www.facebook.com/MinisteriodaSaudeTL>

↑こちらからどうぞ  
(冒頭に広告が入ります)

# 【勉強会報告】

\*毎回の勉強会は、ウェブサイトとFBで詳しくご報告しています。

8月20日:薬について考えるシリーズNo.3 新型コロナワクチンと医薬品特許  
 話題提供:稲場雅紀さん  
 (「新型コロナに対する公平な医療アクセスをすべての人に!連絡会」呼びかけ人)

稲場さんをお招きして医薬品特許の問題を取り上げるシリーズも3回目。今回は少し趣向を変えて、ファシリテーターの近藤麻理さん(BiPH理事、関西医科大学)からの問いかけに、スピーカーである稲場さんにプレゼンテーションスライドを使いながらお答えいただく形で進行しました。知的財産権についての基本的知識から、政治との関連、現在のコロナワクチンの問題まで幅広く、かつ分かりやすくお話しただけました。「重要なのは、これは最後のパンデミックではないことだ。」という稲場さん。これから発生するパンデミックに対応できる恒常的な備えが必要というのです。それに向けて私たち市民ができることを、それぞれ問いかれた気がしました。



### TRIPS免除は何を目指すか：先進国主導の「独占と競争」から世界全体での「共有と協力」へ

**これまでの発想 (ACT-A含む) 独占と競争ベースの古い「北から南へ」の発想**

- ◆ 先進国がワクチン・医薬品を開発、技術を知財権で独占
- ◆ 途上国の巨大ワクチン・医薬品企業で大量生産 (実は途上国を当てにしている)
- ◆ 先進国が資金を出して国際機関が購入、途上国に供給する

**TRIPS免除の発想 対等な連携に基づく「共有と協力」の発想**

- ◆ 途上国・新興国で製造能力のある企業・研究所を発掘
- ◆ 知的財産権免除を活用して対等なパートナーシップで技術の共有と移転
- ◆ 各地域で生産能力を強化し供給
- ◆ グローバルな公衆衛生ニーズを満たす

**WHOが打ち出した「アフリカmRNAワクチン技術移転ハブ」構想**

- ◆ 南アのワクチン企業「アフリゲン社」と「バイオヴァック社」が呼応、南アの研究機関なども含めて協力協定を締結：mRNAワクチンの技術移転を受け製造する仕組みづくり
- ◆ これをみた米ファイザー社がバイオヴァック社にファイザー・ワクチンの最終工程+瓶詰めめのライセンス生産を委託→ここで作った分はアフリカに出荷。






9月24日:外国人住民の新型コロナ感染から見えてくる壁  
 話題提供:橋本智恵さん(愛知県立大学大学院 国際文化研究科 前期課程)

## 日本語が不自由な外国籍住民とのコミュニケーション手段の認識

医療従事者	多言語の認識
看護学校教員 2名	「やさしい日本語」・AI翻訳機・三者間通訳: 外国人対応の言語ツールとして知らない。
保健所総務課	「やさしい日本語」: 行政文書や災害時対応に使う認識
看護師	多言語で意思疎通困難で他院紹介 医療通訳を見たことはあるが、通訳手配などは知らない。 言葉の壁はあるが、改善方法を知らない。 身振り手振り、スマホのGoogle 翻訳利用するときもある。 外来にタブレットで翻訳できると聞いたが使ったことはない。
保健師	母子保健や結核にりかんとした外国人住民に接する機会は多い。保健所内にはポケトークがあるが使うことは少ない。「やさしい日本語」学ぶ機会がない。

外国人住民が保健医療にアクセスする際の障壁は「言葉の壁」「制度の壁」「心の壁」とよく言われます。今回はその中でも特に「言葉の壁」について、看護師の橋本さんが複数の保健所での聴き取り調査に携わった時の経験をシェアしていただきました。

橋本さんのメインメッセージは、多言語ツールは整備されてきているが、保健医療提供側の認識が低ければ活用されない、ということ。保健医療従事者が外国人住民について理解を深める事が必要ではないか、誰が、何を、どのように外国人住民の「言葉の壁」を低くしていくのか、と問題提起していただきました。質疑応答を通して、参加者のかたからも情報をご提供いただけました。

11月26日:これまでと、これからと 一東ティモール事業&ほんプロ茶話会—  
 話題提供:清水香子さん(アジア保健研修所)、BiPH事務局

この日のテーマは2本立て。まずは東ティモール事業について樋口代表理事が進捗を報告し、次に、現地出張中の石本事務局長が、現地の状況やパーツ大学公衆衛生学部の授業(フィールド実習)の様子を紹介しました。

次に、Helping Health Workers Learn(デビッド・ワーナー著) 翻訳プロジェクト(通称「ほんプロ」)について清水さんから進捗状況をお話いただきました。この時点では翻訳は完成し、監修作業の真っ最中。参加者からは本の内容についての質問だけではなく、活用方法、可能性のある読者、販売方法などの貴重なアドバイスもいただきました。(右はできあがったばかりの日本語版サンプルの一部です。)

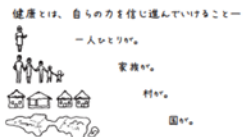
26-1

### 第26章 人間関係が健康に与える影響に注目する

世界保健機関 (WHO) によれば、健康とは、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態 (ウェルビーイング) のことであり、単に病気や疾患がないということではない、とされています。私たちも同意します。

本書ではこれまで、いかに多くの場面で人的要因<sup>26-1</sup>が健康とウェルビーイングを決定づけているか、ということをお話してきました。ここで言っている「人的要因」とは、人がどのようにお互いに助け合ったり、傷つけ合ったりするのか、ということです。また、多くの人が病気になる背景に貧困がどのように潜んでいるのかも見てきました。そして第23章と第25章では、世界で起きている飢饉は、人口増加や土地や資源の不足が主な原因ではないことを論じました。飢饉は、不公平な分配—土地、資源、意思決定の権利が公平に与えられていないことに起因しているのです。つまり、こういうことです。

健康、それには技術的要因よりも社会的要因が大きく関わります。お互いが自立し、そして対等な立場で、友人のように助け合っていくことで、人は、そして家族、コミュニティ、国もまた、健康を手に入れることができるのです。





## 【今後の勉強会予定】

回	日時	テーマ	担当
76	1月28日(金) 18:30-20:00	尊厳ある生のために	安藤明夫さん (中日新聞 編集委員)
77	3月26日(金) 18:30-20:00	患者と医療者と社会の架け橋に ～当事者セラピストの活動～	山田隆司さん (CMT友の会代表、NPO法人にこまる 所長、作業療法士)
78	5月(調整中)	HHWL翻訳プロジェクト完成報告会(仮)	ほんプロ監修チームほか
79	7月	調整中	
80	9月21日(水) 18:30-20:00	Activities of supporting homeless people in Nagoya (名古屋のホームレス の人びとへの支援活動)	レジナルド・サロンガさん (名古屋市立大学 高等教育院 語学講 師)

最新情報・お申込みはウェブサイトをご覧ください。

<http://plaza.umin.ac.jp/biph/study-meeting/>

参加費:BiPH会員500円/回(年会費と合わせてご請求します)

非会員1,000円/回(クレジットカード利用またはコンビニ払いの場合)、または500円/回(口座振込の場合)

\*新型コロナウイルス感染症対策により、当面はオンライン (Zoom) で開催します。  
状況によっては開催方法変更もありますので、どうぞご理解ください。

### 【「新型コロナに対する公正な医療アクセスを全ての人に！連絡会」について】

すべての国の人々にコロナ対策の医薬品やワクチン、技術が届けられるよう、政府や国際社会に働きかける市民の動きが国際的に広がっています。日本でも、「新型コロナに対する公正な医療アクセスを全ての人に！連絡会」が活動しています。BiPHも団体としてこの連絡会に参加しています。参加する個人・団体は現在も募集中とのことです。詳しくは以下をご覧ください。(ウェビナーの貴重な動画や資料も公開されています。)

「新型コロナに対する公正な医療アクセスを全ての人に！」連絡会

ご参加・ご協力の呼びかけ <https://aif.gr.jp/covid-19/network-covid19/>

連絡会の各種資料はこちらから <https://aif.gr.jp/covid-19/network-covid19/>



### 【編集後記】

今回はインターンの竹村さんにも書いていただきました。作業を通して「世の中の現状や今までの研究からわかっていることを簡潔にわかりやすく伝えることの大切さを学びました」とのこと。今後の活躍を期待します。

### 【会員募集】

当会は活動にご賛同いただける皆様からの会費で成り立っています。ぜひ会員としてご支援ください。

会員の種別、払込先は以下の通りです。また、ご寄付も随時ありがたくお受けしております。

詳細は事務局までお問い合わせください。

個人正会員3,000円/年、個人賛助会員3,000円/年、法人会員30,000円/年

振込先:ゆうちょ銀行 00870-9-126227 ジャ)ブリッジズインパブリックヘルス

会報「BiPHかわらばん」2022年1月号 (通算9号)

発行:一般社団法人Bridges in Public Health

代表理事:樋口倫代

〒467-0027 名古屋市瑞穂区田辺通1丁目22番地2

TEL: 052-846-5878 E-mail: biph-adm@umin.ac.jp

URL: <http://plaza.umin.ac.jp/biph>

FB page: <https://www.facebook.com/biph.adm/>



**BiPH**  
Bridges in  
Public Health